



社団法人倫理研究所 平成23年度年次報告

ANNUAL REPORT

はじめに

創立 65 周年を迎えた平成 23 年度は、公益法人制度改革に伴う新たな体制の基盤を固めつつ、「地球倫理の推進」「日本創生」の目標理念の下に、個人・法人会員組織ともに公益活動を力強く展開しました。

普及部門の生涯局では、「じっと見つめる」をテーマに全国 145 ヵ所で家庭倫理講演会を開催し、純粋倫理の実践を広く提唱するとともに、未普及県・市・区への拠点作りを推進。会員数は 198,559 名に達しました。

文化活動は「第 6 回しきなみ子供短歌コンクール」に全国から 56,000 名を超える応募者を得て、東京・虎ノ門にて表彰式を開催しました。広く一般の人々を対象に書道・短歌の指導にも力を注ぎ、国民芸術として公益性の高い文化活動を展開しました。

法人局では「企業に倫理を 職場に心を 家庭に愛を」を合言葉に会員企業数 10 万社達成に向け、活力溢れる実践・普及活動を推進しました。倫理経営講演会は全国 541 ヵ所で開催。年度末までに倫理法人会の拠点数は 748 ヵ所、会員企業数は 68,031 社に達しました。

研究部門では今年度より「研究センター」と改称し、倫理文化学の構築を目指した純粋倫理・倫理思想の研究および日本文化に関する研究を推し進め、「公開研究発表会」などを通じて成果を広く発信しました。また創立 65 周年記念行事として「日中実践倫理学討論会 2010」を開催し、「持続可能性が求められる時代の『企業倫理』」をテーマに発表と討論を重ね、相互の交流も深めました。

教育部門では富士教育センターの恵まれた自

然環境と施設を活かし、生活倫理・企業倫理・青少年教育の各セミナーを実施しました。また、さらなる教育環境の整備を目的とした第 3 次グランドデザイン工事が完了しました。

出版部門では、『今日もきっといいことがある』『じっと見つめる』のほか、倫理文化研究叢書として『戦士の道と純粋倫理』『母性とたましい』を発刊。また『万人幸福の栞』『幸せになる法則』を中国語訳で再編纂した『幸福之路』を中国で初めて店頭販売しました。さらに創立 65 周年記念事業として『メロディーで伝える日本の愛唱歌 (CD)』を制作して好評を博しました。

広報活動では「第 14 回地球倫理推進賞」の国際活動部門を選出して贈呈式を挙行。「まなびピア高知 2010」に参加し、「第 29 回地球倫理フォーラム (高知新聞紙上)」などの協賛事業を実施しました。また倫理普及のバックアップに役立つホームページの刷新を進めました。

国際活動では沙漠緑化事業に 3 隊を派遣し、植林総数は約 313,000 本に達しました。48 次隊では「日中青年討論会」を併せて挙行し、日中青年の絆を深めました。また、アジア諸国の留学生 14 名、中国内蒙古大学学生 79 名に「丸山奨学金」を支給。期待されるブラジルのほか、アメリカ・台湾などでの倫理普及にも力を入れました。

そのほか、東日本大震災教育支援基金 (通称“りんりん基金”) を開設して運用の準備を進めました。

本年次報告を通し、倫理運動に対する一層のご理解・ご支援を念じてやみません。

社団法人倫理研究所

平成23年度年次報告

(自 平成22年9月1日)
(至 平成23年8月31日)

ANNUAL REPORT

平成23年度 活動トピックス ————— 2

創立65周年記念式典／日中実践倫理学討論会2010／第30回地球
倫理フォーラム／国際倫理教育支援／社会教育功労者表彰／第6回
しきなみ子供短歌コンクール／「まなびピア高知2010」協賛・出展／
「地球倫理の森」創成／第14回地球倫理推進賞／復興支援に向けて

「家庭倫理の会」活動の展開 ————— 10

「倫理法人会」活動の展開 ————— 14

文化活動の推進 ————— 18

国際交流の推進 ————— 19

教育・研修 ————— 20

出版活動 ————— 21

研究の充実 ————— 22

倫理研究所の組織概要と沿革 ————— 24

平成 23 年度 活動トピックス

倫理研究所は文部科学省生涯学習政策局所管の社会教育団体として、さまざまな生涯学習活動を展開しました。「全国生涯学習フォーラム高知大会（まなびピア高知 2010）」に参加したほか、文部科学省の後援を受けて、「第6回しきなみ子供短歌コンクール」「第14回地球倫理推進賞贈呈式」「第30回地球倫理フォーラム」を開催。また、3月11日に発生した東日本大震災への復興支援活動も行ないました。



倫理研究所「創立 65 周年記念式典」



板東久美子 生涯学習政策局長

平成 22 年 9 月 3 日、「倫理研究所創立 65 周年記念式典」がホテルオークラ東京で開催され、212 名が参加しました。

式典では、創立 50 周年以降の活動経過報告として、「まなびピア」への参画など、ここ 15 年間の対外的活動を映像とナレーションで紹介。続いて丸山敏秋理事長が式辞を述べ、創立の原点を振り返りつつ、「自分たちの国、郷土、自然を愛し、家族を愛して、日本のために貢献していきたい」と訴えました。

来賓祝辞では、文部科学省の板東久美子生涯学習政策局長が、終戦直後に熱き志とともに設立された倫理研究所の創立に触れ、川端達夫文部科学大臣（当時）の祝辞を代読。参加者それぞれ歴史の重みを胸に刻み、閉幕しました。



創立 65 周年記念 「日中実践倫理学討論会 2010」開催

倫理研究所創立 65 周年の記念事業の一環として、「日中実践倫理学討論会 2010」を平成 22 年 10 月 23 日～25 日まで開催。中国側からは謝地坤・中国社会科学院哲学研究所所長をはじめ、11 名が参加しました。

期間中、日本側・中国側から 4 名ずつ計 8 名が発表。最終日には総合討論が行なわれ、企業倫理のあり方、地球環境への責任など、企業が直面するさまざまな問題をめぐって、活発な議論が展開されました。(関連記事 p.19、22)

テーマ「持続可能性が求められる時代の『企業倫理』」

Session 1 孫 春晨「わが国の企業『誠信』の確立における障害と活路」

Session 2 三浦貴史「純粹倫理に基づいた経営理念についての考察」

Session 3 田中裕人「感動の一品入魂」

Session 4 邹 順康「社員の品性が企業の業務の品格を決定する」

Session 5 甘 紹平「人権と企業」

Session 6 阿部博人「企業の倫理と社会責任」

Session 7 陳 進華「地球的規模から見た環境責任」

Session 8 佐藤貢悦「渋沢栄一の道德経済合一主義」

総合討論



謝地坤 中国社会科学院哲学研究所所長





第 30 回地球倫理フォーラム (後援：文部科学省)

平成 23 年 4 月 29 日、第 30 回地球倫理フォーラムが「これからの日本の教育」をテーマに大分市で開催され、1,057 名が参加しました。

「これからの日本の教育を支える家庭教育」と題し、文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長の高口努氏は、子供たちの「生きる力」の育成に向けた、学校・家庭・地域の連携の必要性を説きました。続いて丸山敏秋理事長が「家庭の絆をはぐくむ教育」と題し、講演を行ないました。

国際倫理教育支援

平成 13 年度よりスタートした「丸山奨学金制度」。日本との交流の懸け橋となる人材育成を目的に、日本に留学しているアジア諸国の大学生、大学院生に奨学金を支給し、勉学を援助しています。

平成 23 年度は内蒙古大学の大学生 79 名に「丸山奨学金」を支給（10 月 14 日贈呈式）。また、中国やシンガポール、イスラエル、マレーシアなど、アジア 7 カ国からの留学生 14 名に、総額 1,566 万円の奨学金を支給しました。



社会教育功労者表彰

平成 22 年度の「社会教育功労者表彰式」が 12 月 14 日、文部科学省講堂で開催され、倫理研究所から戸田徹男参与が表彰されました。

戸田参与は昭和 40 年倫理研究所に研究員として入所。個人研究として登校拒否・ひきこもり問題の解決に取り組み、22 年にわたって親の集いを開催してきました。戸田参与は「表彰は私個人というより、倫理研究所の永年にわたる社会教育活動に対するもので、代表して頂戴しました」と喜びを語りました。

第6回しきなみ子供短歌コンクール (後援：文部科学省)

平成23年2月27日、第6回しきなみ子供短歌コンクール表彰式がニッショーホール（東京・虎ノ門）で行なわれました。

今回は全国の小学生56,411名から応募があり、「しきなみ子供短歌賞」3名及び「特選」30名には、丸山理事長より表彰状が授与されました。さらに「しきなみ子供短歌賞」3名には、文部科学省生涯学習政策局社会教育官・服部英二氏から、「文部科学大臣賞」が贈られました。

表彰後、「星と森披講学習会」メンバーがしきなみ子供短歌賞3首を披講。男性は狩衣、女性は内掛け姿で登壇し、美しく優雅な調べが会場の隅々まで響き渡りました。

【しきなみ子供短歌賞・文部科学大臣賞受賞作品】

低学年の部

あめのひのさんぽでみつけたさといものは一とのはっぱに
びーだまきれい (仁木円香／徳島・小学1年生)

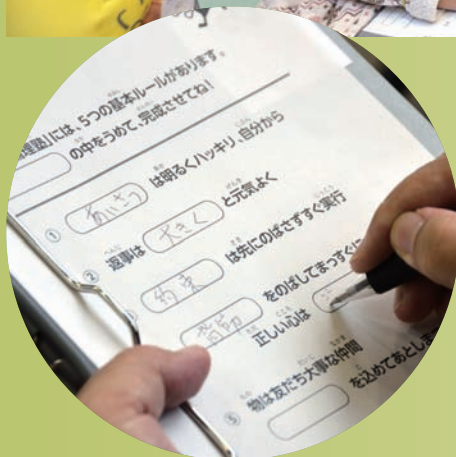
中学年の部

みんなはね気づかないよねこんな事しずくの歌や朝顔のあくび
(ミルスタイン杏奈／東京・小学4年生)

高学年の部

センサーに感知されたわが存在自動とびらはゆっくり開く
(村松泰我／愛知・小学6年生)





知新聞に「第29回地球倫理フォーラム」として、高知駅や富士高原研修所などの設計を手がけた建築家・内藤廣氏と丸山理事長による対談記事を掲載しました。

「まなびピア高知 2010」協賛・出展 (主催：文部科学省・高知県)

全国生涯学習フォーラム高知大会「まなびピア高知 2010」が、平成22年11月20日～22日にかけて開催されました。

倫理研究所は、高知ちばさんセンターでの全国生涯学習情報発信市に「こども倫理塾ワクワクランド」を出展。期間中700名が来場しました(同センター来場者数5,300名)。

協賛事業として、10月1日～11月19日まで、高知放送にてラジオ番組「こころ温まるいい話」(月～金・15時20分～25分)を放送。また、11月20日には高



建築家・内藤 廣氏



「地球倫理の森」創成

沙漠化が進む中国・内蒙古自治区恩格貝にポプラを植林する沙漠緑化事業。倫理研究所では平成 11 年より毎年緑化隊を派遣し、日中共同で植林活動を行なっています。

平成 23 年度も 4 月～8 月にかけて 3 隊が編成され、111 人の参加者により、合計 3,144 本を植林。第 1 次隊からの植林本数はのべ 31 万 3,023 本となりました。

第 48 次青年隊（4 月 28 日～5 月 5 日）は、50 名（うち青年 40 名）の日本隊に、中国側から 67 名の大学生が合流、ともに植林に汗を流しました。5 月 2 日には初めての日中青年討論会を開催し、「地球環境と私の生活」をテーマに活発な意見や質疑応答が交わされました。

第 49 次隊（6 月 5 日～11 日）、第 50 次隊（7 月 31 日～8 月 6 日）にはそれぞれ 27 名、34 名が参加。「10 年ぶりに参加したが、当時より水も緑も多くなっていて驚いた」「この経験を日本でも活かしたい」などの感想が参加者から聞かれました。（関連記事 p.11）





桑山紀彦代表 後藤明子事務局長



第14回地球倫理推進賞

(後援：文部科学省・産経新聞社・全国民間ラジオ局 37 社)

第14回地球倫理推進賞は『産経新聞』、インターネットのNPO関連ページ、倫理研究所刊行物などを通して公募。全国から57件(国内活動部門44件・国際活動部門13件)の応募が寄せられました。

厳正かつ慎重な選考の結果、受賞団体は「NPO 法人地球のステージ」に決定。選考では、代表の桑山紀彦氏が医師としての使命感を持ち、長年にわたりパレスチナなどの戦闘地域で医療活動に従事する取り組みが高く評価されました(国内活動部門は該当なし)。

平成23年4月27日、倫理文化センターにて贈呈式を行い、表彰状と副賞100万円を贈呈。ならびに、文部科学省生涯学習政策局社会教育課課長補佐の平川康弘氏より文部科学大臣賞が贈られました。記念講演では、桑山氏による語りと映像、音楽によるステージが披露されました。

(写真左) 東ティモールでの移動診療

(下) 映像と音楽を駆使したステージを披露する桑山氏



復興支援に向けて

3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方の沿岸部を中心に甚大な被害をもたらしました。

倫理研究所では、被災地への支援として、日本赤十字社を通じて義援金3千万円を寄付。4月3日～6日には丸山理事長が東北3県を訪れ、お見舞い金を手渡すとともに、ブラジル松柏学園・大志万学院の生徒たち手折りの千羽鶴を届けました。被災地で初めて行なわれた特別モーニングセミナーでは、福島（4日）、岩手（5日）、宮城（6日）の3県でそれぞれ100名を超す参加者があり、理事長が特別講話を行ないました。5月には徳江秀雄普及開発部長が被災地を見舞うとともに、「被災地に倫理の話を」という要請を受け、倫理の集いを実施。11日は岩手県陸前高田市で、流出をのがれた民家の庭先に80名ほどの人が集まり、「青空講演会」が行なわれました。

また、復興支援の一環として、「東日本大震災教育支援基金」（通称・りんりん基金）を4月に立ち上げました。これは震災遺児・孤児の勉学を援助するとともに、被災地の教育環境を整備することを目的に開設したもので、倫理研究所はこの基金に3億円を拠出。合わせて、一口1万円で寄付を募って基金を充実させ、継続的な支援を行なう予定です。

そのほか、月刊誌『新世』では「東日本大震災—明日へ」と題した特別企画を連載し、被災地の生の声と復興への足取りを取材。月刊『倫理』誌上でも「大震災後の日本を考える」というテーマで、丸山理事長による論文を連載しました。

被災地の復興にはまだまだ長い時間を要します。「りんりん基金」を軸に、倫理研究所では今後とも息の長い復興支援を行なってまいります。



「家庭倫理の会」活動の展開

「家庭をよくし、地域をよくし、日本をよくする」という目的のもと、地域密着、地域貢献型の活動を組織的に展開しました。未普及地域への拠点づくりを着実に推進し、「おはよう倫理塾」のさらなる強化充実を図り、愛和の家庭づくり、地域貢献のできる人材育成に努めました。



家庭向け月刊誌『新世』

地域における生涯学習活動

家庭倫理講演会

(後援：文部科学省)

家庭教育力の向上こそ現代の最重要課題であると捉え、「じっと見つめる」をメインテーマに全国で開催しました(震災・台風の影響で44カ所中止)。家庭の意義や夫婦・親子関係を考え直すとともに、家庭における感謝の心の重要性と具体的な実践を提言しました。

開催会場	参加延べ人数
145カ所	56,830名 (未会員 22,509名)



おはよう倫理塾

早朝5時から、さわやかな笑顔に囲まれて、老若男女が明朗・愛和・喜働の実践に励み、純粋倫理の学習を深めました。

開催会場	参加延べ人数
409カ所	2,057,655名



こども倫理塾

小学生を対象に、「まなび」「あそび」「しつけ」を三本柱として、挨拶や後始末の練習など、純粋倫理を基本とした生活習慣の体得を図りました。

開催回数	参加延べ人数
993回	14,654名



地域に役立つ活動

子育てセミナー

家庭倫理の会が、乳幼児期や小・中学生の子供を持つ親を対象に実施。純粹倫理に基づいて、子育ての要点をわかりやすく解説。子供の年代ごとに対象者を編成したセミナーは、若い母親や父親に好評を博しました。

開催回数	参加延べ人数
1,075 回	11,567 名



全国一斉清掃

地域行事へ積極的に参加し、地域の活性化に貢献すべく、平成 22 年 10 月に全国主要都市の公共施設（駅周辺、国道、河川敷など）で大規模な清掃を実施。地域の美化・浄化に取り組みました。

開催会場	参加延べ人数
189 力所	4,584 名



青年活動

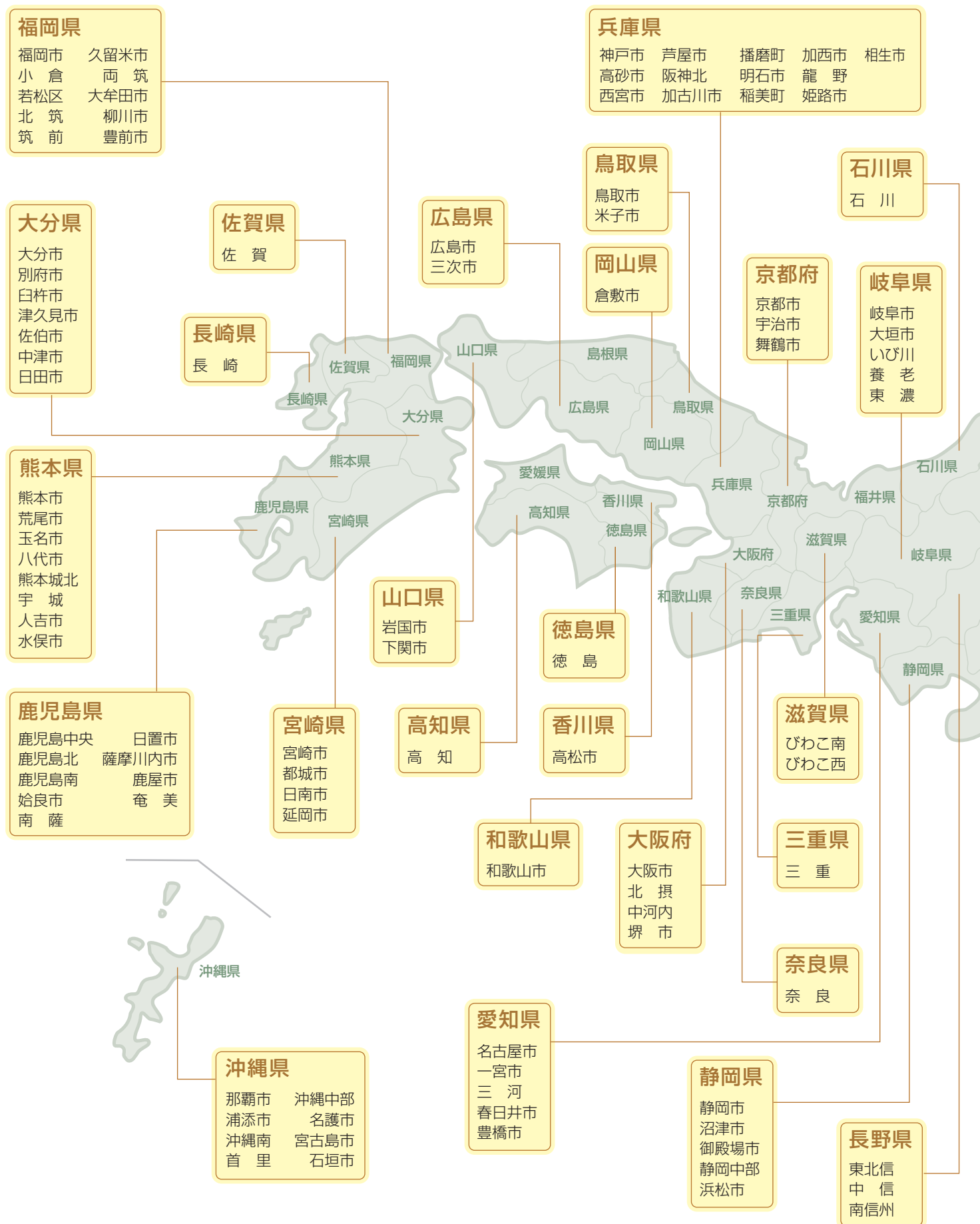
「地球倫理」実践活動

平成 23 年 4 月 28 日～5 月 5 日、中国内蒙古自治区恩格貝のクブチ沙漠で、沙漠緑化の植林活動を行ないました。

日本から 40 名の青年が参加し、中国からも北京市、浙江省、内蒙古自治区など、9 大学 67 名の学生が集結。総勢 107 名の日中青年による合同植林活動とともに、「日中青年討論会」を開催。「地球環境と私の生活」をテーマに、活発な意見交換を行ないました。「地球倫理」の実践活動として、こころの教育の場として、両国青年の絆を一層深める機会となりました。

「家庭倫理の会」分布図

全国199ヵ所の家庭倫理の会で生涯学習の活動を展開しています。
(平成23年8月31日現在)





家庭倫理の会



「倫理法人会」活動の展開

「日本創生」の実現、会員企業数 10 万社達成に向けて、全国 65,000 社の会員企業が精力的な実践・普及活動を推進しました。平成 23 年度は、さらなる未普及地域の開発、単位倫理法人会の活動内容の見直しと充実を図りました。東日本大震災では岩手・宮城・福島県を中心に会員企業も多大な被害を受けましたが、いち早く復興へ向けた諸活動を再開。各地域へ大きな活力を与えました。



隔月刊誌『倫理ネットワーク』



朝礼用冊子『職場の教養』

倫理経営講演会

平成 23 年 1 月～6 月、「創生の経営道」「トップを支える家庭力」をテーマに掲げ、全国主要都市にて開催しました（震災の影響で 61 カ所中止）。倫理経営の重要性をアピールし、多くの経営者の賛同を得ました。

開催会場	参加延べ人数
541 カ所	65,420 名



経営者モーニングセミナー

毎週 1 回、早朝に全国約 680 会場で開催。参加者は朝型の生活習慣を体得するとともに、各界で活躍する講師の貴重な体験談などを交えて、企業を健全な繁栄へと導く「倫理経営」についての学びを深めました。また、会員同士の交流や情報交換も盛んに行なわれました。

開催回数	参加社数	参加延べ人数
32,415 回	671,752 社	779,288 名

職場朝礼の推進

社員の能力向上と企業の健全な繁栄に向けて、活力あふれる職場朝礼を推進しています。その浸透のために「朝礼研修」に力を注ぎ、朝礼を実施する企業の増大を図りました。また、職場朝礼用のテキストである『職場の教養』（非売品）を毎月 160 万部発行し、会員企業に提供しました。



後継者倫理塾

企業の未来を担う後継者の育成を目的として、純粋倫理の学習と実践を通し、よりよい生活習慣と豊かな人間性、真のリーダーシップを備えた青年経営者の養成に力を注ぎました。

千葉・長野・埼玉・新潟・東京・栃木・石川・愛知・沖縄の1都8県で実施し、年間8～12回開塾。総勢143名が参加しました。



経営者の集い

広く倫理経営を伝えることを目的に、各倫理法人会で定期的に開催しました。「経営者モーニングセミナー」に参加できない会員や、初めて出席する経営者を対象に、会員企業による事業体験報告を通して、純粋倫理についての学びを深める勉強会を実施しました。



開催回数	参加延べ人数
1,862 回	30,949 名



法人レクチャー会

自らの倫理実践による事業体験を語り、倫理経営の醍醐味を伝える法人レクチャーを対象に、平成22年10月に研修会を実施(出席者455名)。「経営者の集い」、「経営者モーニングセミナー」における体験発表者としての講話力の向上に努めました。

倫理経営インストラクター会

純粋倫理の理解と倫理指導力の向上を図るため、平成23年1月に開催しました(出席者219名)。平成23年度は「倫理経営上級インストラクター」4名、「倫理経営インストラクター」15名が新たに認定されました。

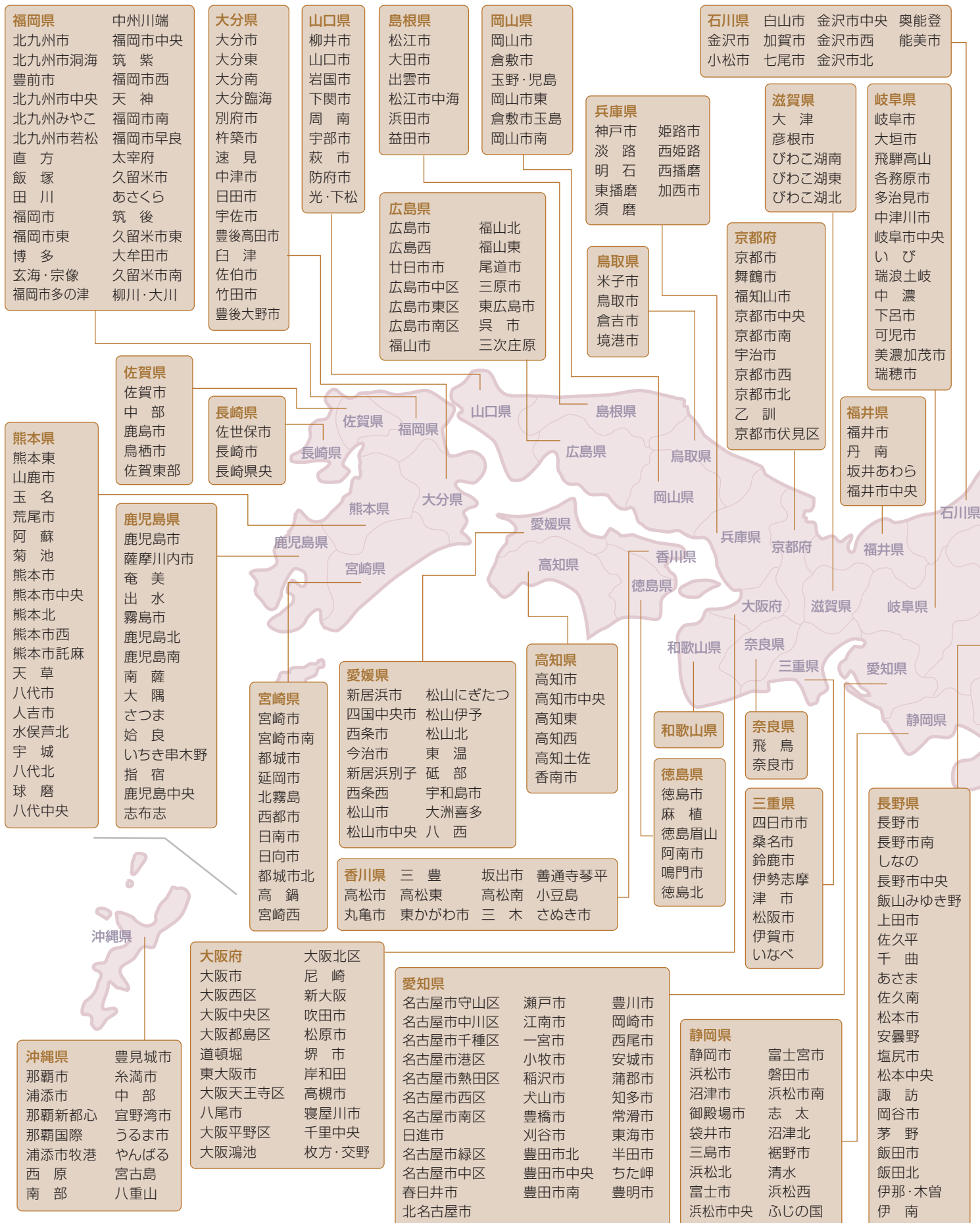
倫理ライセンス「倫理17000」

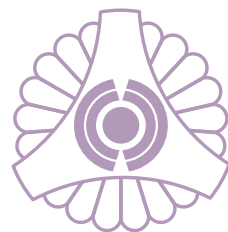
地域社会に貢献する企業づくりと、倫理経営を顕著に推進している企業の証として、新たに13の会員企業に倫理ライセンス「倫理17000」認定証を授与しました。同ライセンス認定企業は計153社となりました。



「倫理法人会」分布図

全国702カ所の倫理法人会で倫理経営の推進活動を展開しています。
(平成23年8月31日現在)





埼玉県	羽生市	三郷市	大宮	さいたま市見沼	志木市	飯能市	深谷市
久喜市	古河・境	草加市	さいたま市南	さいたま市与野	川越市	坂戸市	寄居・秩父
古河	上尾市	春日部市	岩槻	さいたま市緑	所沢市	鶴ヶ島市	
蓮田市	鴻巣市	八潮市	さいたま新都心	新座市	狭山市	比企	
加須市	桶川市	吉川・松伏	さいたま市浦和	朝霞市	入間市	熊谷市	
幸手市	北本市	川口市	さいたま中央	とだわらび	川越市中央	行田市	
東埼玉	越谷市	川口・鳩ヶ谷	さいたま市桜	富士見・三芳	東松山市	本庄市	

群馬県	太田かなやま	伊勢崎市	前橋しきしま	富岡市	吾妻
太田市	みどり市	渋川市	高崎市	玉村町	
桐生市	邑楽郡	沼田市	高崎東	安中市	
館林市	前橋市	前橋中央	藤岡市	安中碓氷	

新潟県	佐渡市	三条南	長岡西	見附市
新潟市	新潟中央	燕中央	魚沼	白根・加茂
新潟東	新潟西	長岡市	柏崎市	妙高市
新潟南	三条市	長岡南	十日町市	長岡北
新発田	燕・西蒲	上越市	小千谷市	

山形県	酒田市
山形市	鶴岡市
米沢市	上山市
天童市	長井市
寒河江市	南陽市
山形市蔵王	新庄最上

北海道	札幌東
札幌市	札幌西
旭川市	北斗市
函館市	札幌白石
帯広市	札幌手稲
札幌中央	札幌豊平
小樽市	札幌千歳市
札幌北	

青森県	三沢市
八戸市	五所川原市
青森市	黒石市
十和田市	八戸市中央
二戸	むつ市
弘前市	青森市中央

岩手県	久慈市
盛岡市	釜石市
花巻市	宮古市
奥州市	けせん
一関市	遠野市
北上市	盛岡みなみ

秋田県	秋田北	大館市
秋田市	由利本荘	秋田山王
大曲	湯沢市	仙北市
横手市	能代市	

福島県	郡山市
白河市	
福島市	
会津若松市	
須賀川市	
郡山中央	
喜多方市	
相双	

宮城県	気仙沼市	さくら
仙台中央	仙台泉	くりはら
石巻市	仙台若林	仙台広瀬
仙南	仙台宮城野	仙台東
登米市	仙台太白	白石蔵王
大崎	仙台青葉	仙台はせくら
多賀城市		

栃木県	宇都宮市	宇都宮南
小山市	宇都宮市北	日光市
足利市	はか野	那須野ヶ原
佐野市	鹿沼市	さくら
栃木市	宇都宮西	那須野ヶ原中央
下野市	宇都宮中央	
小山中央	宇都宮東	

茨城県	常陸太田	坂東市	龍ヶ崎市	つくば中央
水戸市	笠間市	常総市	つくば市	取手
ひたちなか市	水戸中央	筑西市	常総みなみ	
鹿行	鹿嶋市	結城市	石岡市	
潮来	下妻市	土浦市	牛久市	

東京都	練馬区	三鷹市
江戸川区	板橋区中央	東村山市
葛飾区	中央区	東大和市
江戸川区東	中央区西	府中市
江東区	港区	調布市
墨田区	品川区	小金井市
墨田区中央	大田区	小平市
江東区西	千代田区	立川市
足立区	九段	青梅市
足立区西	渋谷区	昭島市
足立区北	渋谷区中央	福生市
文京区	新宿区	八王子市
上野	新宿区四谷	八王子市中央
浅草	世田谷区	町田市
後楽園	杉並区東	多摩市
荒川区	杉並区西	日野市
湯島	中野区	あきる野市
北区	目黒区	
豊島区	世田谷区玉川	
巣鴨	武蔵野市	
板橋区		

千葉県	八千代市	印西市
流山市	船橋市中央	銚子市
野田市	市川市中央	八街市
柏市	船橋市北	匝瑳市
我孫子市	浦安市	市原市中央
柏市沼南	市川市南	市原市南
柏市中央	千葉市若葉区	茂原市
柏の葉	四街道市	いすみ市
松戸市	千葉市美浜区	千原
鎌ヶ谷市	千葉市中央区	東金市
松戸市中央	千葉市花見川区	館山市
白井市	千葉市緑区	君津市
松戸市東	千葉市稲毛区	木更津市
船橋市	成田市	袖ヶ浦市
市川市	香取市	鴨川市
習志野市	佐倉市	

神奈川県	相模原市
川崎市	相模原市橋本
川崎市南	鎌倉市
川崎市高津区	藤沢市
横浜市鶴見	茅ヶ崎市
横浜市	大和市
横浜市中中央	平塚市
横浜市磯子区	小田原市
横浜戸塚泉栄	秦野市
横須賀市	厚木市
逗子葉山	伊勢原市
横浜市北	
横浜市青葉区	

山梨県	甲府市
富士吉田市	
韮崎市	
笛吹市	
南アルプス市	
甲府南	
甲斐市	
つる	

文化活動の推進

「しきなみ短歌会」は 379 支苑、「秋津書道会」は 308 支苑、しきなみ・秋津合計会員数 9,699 名となりました。「初めての書道教室」や「初めての短歌教室」などを開催して広く一般に参加を呼びかけるなど、文化活動による新たな倫理普及の取り組みは、着実に広がりを見せ実績を上げはじめています。

秋津書道会

同会の特色である《自分の思いを書く》作品づくりに取り組むべく、会員を対象とした「第4回秋津賞・秋津こども賞」を開催しました。応募者数は「秋津賞」587 名、「秋津こども賞」73 名でした。

また、各地の家庭倫理の会が地域ごとに書道展・文化展を開催。「第4回秋津賞・秋津こども賞」の入賞作品を巡回展示し、好評を得ました。このほか、広く参加者を募る「初めての書道教室」などを開催しました。

月刊誌『秋津書道』は、年間競書出品総数 30,466 名（前年比－857 名）となりました。「秋津書道体験記」も好評を博しています。



月刊誌『秋津書道』

しきなみ短歌会

未会員を対象に、広く参加者を募る「初めての短歌教室」を積極的に開催することにより、入会者も着実に増加してきました。第 15 回「しきなみ賞・しきなみ新人賞」は応募総数 596 名。昨年に引き続き 20 代・30 代の若い世代の清新な作品をはじめ、日常生活を見つめて詠んだ感動的な作品が目立っていました。

月刊誌『しきなみ』は、年間の出詠者総数が 62,099 名（前年比＋445 名）となり、全国の短歌結社中、出詠者数で 10 年連続トップとなりました。毎月掲載している「しきなみ体験記」も引き続き好評を博しています。



月刊誌『しきなみ』



国際交流の推進

海外組織の育成ならびに国情に応じた倫理普及・交流を展開し、「アジア（世界）のタグボート」として倫理道德の昂揚に寄与しました。また、海外普及の調査、倫理図書の翻訳・出版に関しての調査を行ない、翻訳図書を刊行しました。

倫理研究所USA (南カリフォルニア倫理の会)

平成 23 年 5 月 15 日、「じっと見つめる」をテーマに「第 1 回家庭倫理シンポジウム」を開催。125 名が参加しました。



「幹部研修」「りんりセミナー」「モーニングミクサー」を毎月実施し、会報『おはようロスアンゼルス』を毎月発行するなど、組織の充実と純粋倫理の理解・実践・普及力の向上に努めました。そのほか「ビジネスセミナー」を通して日系企業の経営者や社員に倫理経営の必要性を訴えました。また、短歌会と書道会を定期的に開催。短歌会は月々『羅府新報』の短歌欄に掲載されました。

ニューヨーク倫理友の会

ニューヨークを拠点に活躍する日本人、日系人、企業駐在員などを対象に『NEWS LETTER』を発行。交流会を通じて純粋倫理の情報を発信しました。そのほか、平成 22 年 11 月に「第 10 回年次総会」、平成 23 年 5 月に「春のランチョン」を開催しました。

ハワイ倫理の会

ホノルルを拠点にラジオ・新聞等のメディアを活用しながら日系社会への普及拡大を図り、倫理講演会を定期

的に開催しました。毎週「土曜倫理の集い」を事務所で開催し、内容・組織運営両面の充実を図るとともに、平成 20 年 3 月に設立した「ハワイ留学里親制度」も継続しました。ハワイを訪問する日本の会員との交流も着実に増えています。

ブラジル倫理の会

組織運営と普及拡大を図るべく、研究員の長期滞在を 3 回実施しました。セントロ支部と聖北支部では毎週土曜日に「朝の集い」を開催。アメリカーナ支部では、ブラジル語での普及が活発に行なわれ、松柏学園・大志万学院では生徒や父兄対象の倫理セミナーを開催し、日系社会への倫理普及に努めました。また会報『ブラジル倫理の会』を毎月発行して会員相互の関係を密にするとともに、会報を通じた「南カリフォルニア倫理の会」との交流も行なわれました。

そのほか、平成 23 年 1 月、翻訳図書として、『KIDO』（『喜働』のブラジル語版）を出版するなど、経営者層への倫理普及にも力を入れました。

平成 23 年 5 月にはブラジル人の会員 7 名の富士高原研修所受講が実現しました。



中華民国倫理研究学会との交流

年間 6 回研究員を派遣して、講師研修・分会長研修などを行ない、幹部の育成と組織運営の支援にあたりました。また、平成 23 年 4 月 9 日、「第 24 回倫理文化講演会」（参加者 510 名・台中市）が開催され、講師を派遣しました。



中国社会科学院との交流

中国社会科学院応用倫理研究センターをはじめ、中国倫理学会との学術交流を推進しました。平成 22 年 10 月 23 日～25 日、倫理研究所創立 65 周年記念行事として「日中実践倫理学討論会 2010」を東京で開催。また、浙江工商大学日本文化研究所との交流などにより、日中両国相互で文化の理解を深めました。

教育・研修

家庭倫理の会会員を対象とした「生活倫理セミナー」、経営者や社員を対象とした「企業倫理セミナー」、そのほか、小学生と保護者を対象とした「親子自然教室」など、富士山麓に広がる自然豊かな富士高原研修所において、各種セミナー・講座を開催しました。平成 23 年度の受講者総数は 6,227 名となりました。



青少年教育

小学生と保護者を対象とした「親子自然教室」（平成 23 年 8 月 5 日～7 日）を実施。小学生は「あそぶ・まなぶ」、保護者は「信じる力」をテーマに、親子の絆を育む富士山トレッキングやあいさつ実習、宝探し、吹き矢、肝だめし、清掃などを通して「人・モノ・自然」への感謝の気持ちを深めました。

また、中高生の気力を育てる「中学生・高校生セミナー」（平成 23 年 8 月 9 日～12 日）を開催。富士登山やチーム発表会などを通じて、協力や助け合いの喜びと感動を体験し、進路や希望、友情や恋愛などについても、楽しく有意義に学びあいました。



生活倫理セミナー

生活倫理相談士としての技術と心境をみがき合う「生活倫理相談士講座」を 10 組開催しました。また、3 つの講座「基本講座」「リフレッシュセミナー」「生活倫理相談士養成講座」を 24 組同時開催しました。

「基本講座」では、知（学習）行（実習）両面から純粹倫理の学びを深め、「リフレッシュセミナー」では、創始者の人と思想を学習。「生活倫理相談士講座」では、自己の課題を自分で発見し解決する実習などを行ない、スキルアップを図りました。

企業倫理セミナー

経営者倫理セミナーは、企業の人材育成を通して「日本創生」に寄与しうる「倫理経営の実践者」の養成を目指して 18 組開催しました。

刻々に激変する経営環境の中に生きる自分を深く凝視し、「会社・家庭・健康」の三方向から人生を総点検する講座・実習を展開しました。11 組開催した幹部社員・一般社員倫理セミナーでは、「活力朝礼」の意義と実践や改善・提案の原動力となる「恩意識」を深める講座・実習を行ないました。また、新入社員倫理セミナーは 4 組開催。社会人としての自覚を深める起居動作のトレーニングを中心に、自己受容と報恩感謝、コミュニケーション力を高めるチームワーキングなどを学びました。



研究の充実

純粋倫理の実践事例をもとにした研究、日本人の倫理意識に関する大規模調査、さらには国内外の倫理思想および精神文化等の研究を推進し、これらの成果を「公開研究発表会」の開催、『倫理研究所紀要』の発刊などを通じて、所内外に発信しました。さらに「日本家庭教育学会」「人体科学会」「中国社会科学院哲学研究所」などの外部諸学会、並びに研究者、専門家との積極的な交流を図りました。



日中実践倫理学討論会 2010

平成 22 年 10 月 23 日～25 日、倫理研究所創立 65 周年を記念して、中国社会科学院哲学研究所を中心とした中国倫理学者 11 名を倫理文化センターに招き、「日中実践倫理学討論会 2010」を開催しました。日本側からは丸山理事長をはじめとして研究者や企業社長など 13 名が参加。「持続可能性が求められる時代の『企業倫理』」をテーマに、研究発表並びに活発な討議が行なわれました。(関連記事 p.3)



月刊誌『倫理』



年刊誌『倫理研究所紀要』

研究の方向と重点

純粋倫理の研究

ア. 純粋倫理の実証的研究

研究センターで実施する体験調査と、所内研究者の研究テーマに則した体験調査により、純粋倫理の実証的研究を推進しました。

イ. 現代問題の解明・探求

現代社会に生起する諸問題に対し、純粋倫理をベースとした改善・解決の方途を探り、時代の要請に応える研究を推進しました。

グループ	研究テーマ
家庭倫理研究	「家庭の絆を修復した事例の実証的研究」
心身相関研究	「倫理現象としての疾病問題の体系化」
家庭問題研究	「日本における夫婦の『姓』と家族形態に関する研究」
倫理経営研究	「倫理経営の研究―体系化に向けての基礎的考察―」

倫理思想の研究

ア. 丸山敏雄の倫理思想研究

2012 年に迎える丸山敏雄生誕 120 年に鑑み、その思想について多角的な調査を行ない、現代的意義を考察する研究に取り組みました。

イ. 内外の倫理思想の理論的研究

専門・客員研究員を中心に行なわれる共同研究会および、専門研究員学習会において内外・東西・古今の倫理思想と精神文化の研究を共通テーマのもとに推進しました。研究成果については、論文や、研究発表などの場で公表しました。

人体科学会との交流

平成 22 年 12 月 11～12 日、倫理文化センターにて「人体科学会第 20 回大会」が開催され、その企画・準備・実施にあたりました。「いのちと私たち」をテーマに、「美の顕現と宇宙的霊性」と題して竹本忠雄筑波大学名誉教授が特別講演。大会会長として丸山理事長が「いのちと私たちと気」とくに『みる』という行為を通して」と題して講演しました。そのほか「日仏協力筑波国際シンポジウム」のダイジェスト映像の上映や、18 演題の研究発表が行なわれました。

日本家庭教育学会との交流

平成 23 年 8 月 20 日、貞静学園短期大学にて開催された「日本家庭教育学会第 26 回大会」の企画・準備・実施にあたりました。「家庭教育をどう振興していくか—文科省の方針を受けとめて考える」の大会主題のもと、文部科学省から講師を招聘して講演、シンポジウムなどを行ないました。

公開研究発表会の開催

倫理研究所の研究を広く公開・発信する目的で、平成 23 年 7 月 31 日に倫理文化センターにて開催（倫理研究フォーラムを改称）。184 名が来場し、倫理研究所より 3 名の研究員が研究発表をしました。

研究論文テーマ

『倫理研究所紀要』第 20 号：掲載論文

- 人類は東洋と西洋の文明の衝突へと向かっているのか？
ベン・アミー・シロニー
- 丸山敏雄と湯浅真生 丸山敏秋
- 古代日本人は金星に何を見たか 高橋 徹
- 日本文化の作られ方 ボルテール・ガルセス・カン
- 日本近世儒学思想史の一スケッチ 嚴 錫仁
- 東アジアにおける林羅山 龔 穎
- 「すめろぎのみち」の一考察 野中寛治
- 「祖孫一体」の文化を自己教育に生かす 御所園正信
- 純粹倫理に基づいた経営理念についての考察 三浦貴史
- 「性は神聖」を考える 田中範孝
- 退行する日本人の倫理性 海野 裕
- 道徳心と利他性の数理解析 内田智士
- 澤瀉久敬の医学哲学に関する覚書き 越智秀一
- 八丈島菊池家祭祀祈願文目録 土屋 久

『倫理』第 693 号～704 号：主要掲載論文

【巻頭論文「大震災後の日本を考える」】

- 現代文明を揺るがす「原発震災」 丸山敏秋
- 原子力発電の倫理的問題 〃
- 他者を救う精神 〃

【巻頭論文「國體と倫理の考察」】

- 奇蹟はどうして起こるのか 丸山敏秋
- 神と人との交感 〃
- 奇蹟の発現と呪的思考 〃
- 神話と歴史の見方 〃
- 象徴および中心としての天皇 〃
- 天皇制と個人主義 〃

【内外倫理思想の研究に関する論文】

- 「人身御供」伝説を別な視点から見る 高橋 徹
- 伝統料理の作られ方 ボルテール・ガルセス・カン
- 競争・協調・つながり 内田智士

- 伝統的社会における「しつけ」のあり方 松本亜紀
- 確実に人生を生きる 越智秀一
- 【純粹倫理の実証的研究に関する論文】
- (有) サヨ美容室に見る成功体験 松丸 靖
- 高齢者の介護の実証的研究 伊勢田豊
- 疾病問題にみる「影と倫理」 田中範孝
- 【現代的問題の解明・探求に関する論文】
- 「七つの原理」から地震の意義を見直す 高橋 徹
- 【丸山敏雄の倫理思想研究に関する論文】
- 丸山敏雄の円熟期の書風の特質 島田光男
- 経営理念策定の基本要素についての考察 三浦貴史

大規模調査の実施

日本在住の 10 代～60 代以上の一般男女を対象に、「日本に関する意識調査」を実施。日本人の気質、世界観、倫理観を 100 のコンセプトに集約し、実感度・合致度・重視度をインターネット調査により聴取しました。特に平成 23 年度は、研究資産としての価値を高めるべく調査結果の分析に力を入れました。調査成果は所内研究発表会で公表しました。

教育資料の整備

倫理実践事例をはじめ、各種の倫理情報を収集・分類・整理・保存し、研究・教育・普及・出版の各部門に情報を提供しました。

家庭倫理講演会をはじめ、諸行事で発表された「実践報告」から、原稿 660 篇（実践報告カード 196 篇を含む）を収集。分類・整理を加え、検索システムに入力しました。

また、丸山竹秋会長の著述論文のデータベース化を図り、論文総数 1,575 本の内、816 本をテキスト化。様々な教育・研究資料として運用されるべく整備・管理を進めました。

遺品・図書資料の整備

倫理資料館では、創立者の遺品蒐集・整備ならびに純粹倫理・倫理文化・日本文化・内外倫理思想研究などに資する図書資料の整備と充実化を進めました。

倫理研究所の組織概要と沿革

和やかな家庭、活力のある職場、明るい地域社会をつくることが、美しく平和な社会を築く第一歩と考え、人間生活のすじみちを学び、日々の実践に努める人々の輪を広げるべく、さまざまな事業を展開しています。

倫理研究所は文部科学省生涯学習政策局所管の社会教育団体です。社団法人の許可を受けて〈研究〉〈教育〉〈出版〉〈普及〉の諸活動を行なっているほか、文化芸術活動や環境美化活動にも力を入れています。会員は、倫理研究所の趣旨に賛同する全国各地の個人および法人です。

創立は昭和20年9月3日。敗戦後、世情が混乱し道義が退廃した国の姿を憂えた丸山敏雄が、道義の確立をもって日本を再建したいと論文『夫婦道』の筆を執ったことから倫理運動が始まりました。

永年にわたる研究から発見した生活法則を「純粹倫理」と名づけ、多くの共鳴者、協力者を得て、昭和21年に研究機関として「新世文化研究所」を設立。昭和22年には倫理の普及を推進する組織として「新世会」を設立。翌年には社団法人の許可を受け、昭和26年に「社団法人倫理研究所」と改称しました。

その後、倫理運動は個人会員組織を「家庭倫理の会」、法人会員組織を「倫理法人会」と称して活動しています。

組織概要

名 称 社団法人倫理研究所

代 表 者 理事長 丸山敏秋

所 在 地 〒101-8385 東京都千代田区三崎町3-1-10

所 管 官 庁 文部科学省生涯学習政策局

創立年月日 昭和20年9月3日

昭和23年10月30日に社団法人設立許可

文部科学省所管証明



倫理研究所は、文部科学省生涯学習政策局所管の社会教育団体です。

純粹倫理とは

純粹倫理は日本の精神文化や歴史、宗教等の研究を土台にして樹立された《人間生活の法則=すじみち》です。実生活とひと時も離れることのない生活のルールといえます。人間を幸福に導き、平和で豊かな社会を築く基本の《くらしみち》であり、生きた生活法則です。それは日常生活のあらゆる場面において、だれもが実験実証できます。《明朗=ほがらか》、《愛和=なかよく》、《喜働=よろこんではたらく》、これがその実践であり、《純情=すなおな心》になることが純粹倫理の核心です。

朝、目が覚めたらサッと起きること。誰にでも明るく朗らかに挨拶をすること。返事、後始末をきちんとすること。いずれも日常生活の身近な、あたりまえのことです。このあたりまえのことを継続することで、生活を改善し、家庭や職場をはじめとする人間関係を豊かなものにしようというのが、倫理運動の眼目です。平凡な実践の中にある非凡な真理を知り、日々の実践に努めることがどんなに素晴らしい結果をもたらすか、多くの体験が実証しています。そんな人間向上の道、生活向上の規範が純粹倫理なのです。

倫理研究所の施設

倫理文化センター

東京都千代田区三崎町3-1-10

倫理運動推進の本部機能を有する倫理文化センター。社会教育施設としての機能を充実させ、本部職員が業務を行なうほか、ホールや会議室を利用して、国際会議や研修会も行なわれます。



教育センター

静岡県御殿場市印野1383-85

静岡県御殿場市にある教育施設です。純粋倫理の理論的・実践的学習のために、「生活倫理セミナー」「企業倫理セミナー」「中学生元気塾」「高校生希望塾」「富士山こども倫理塾」などの各種セミナーを行なっています。センター内には、富士高原研修所・富士倫理学苑・富士万葉植物園・丸山敏雄記念館があります。



天和会館

福岡県豊前市大字天和392

創始者・丸山敏雄の生家(平成19年復元)に隣接した会館(平成20年改築)です。伝統建築の粋を集めた家屋は、日本の原風景を感じさせます。毎年大勢の人が訪れるなど、豊前市の新たな観光名所としても注目を集めています。



倫理資料館

東京都武蔵野市境5-6-25

創始者の遺品・遺墨、倫理・道徳に関する専門図書のほか、倫理運動史料や記録などの収集・保存整理を行なっています。『丸山敏雄全集』に基づき、遺品管理データベースの構築を進めるとともに、遺墨の修復を実施し、さらなる内容の充実を目指しています。



沿革

- 1945(昭和20)年 丸山敏雄、論文「夫婦道」起稿、倫理運動を創始。
- 1946(昭和21)年 「新世文化研究所」設立(初代所長、丸山敏雄)。
- 1946(昭和22)年 「新世会」設立。月刊誌『文化と家庭』(現在の『新世』)発刊。
- 1948(昭和23)年 「新世会」が社団法人の許可を受ける。
- 1949(昭和24)年 「朝の集い」開始(上野、神田、銀座、市川)。
- 1951(昭和26)年 「新世会」を「社団法人倫理研究所」と改称。丸山敏雄逝去。丸山竹秋、理事長に就任。
- 1966(昭和41)年 富士高原研修所竣工。
- 1967(昭和42)年 中日支所設立、支所体制がスタート。
- 1973(昭和48)年 アメリカ・ロサンゼルスに拠点開設。
- 1980(昭和55)年 千葉県に第1号の倫理法人会発足。
- 1985(昭和60)年 創立40周年記念大会にて丸山竹秋理事長が「地球倫理の推進」を提唱。
- 1986(昭和61)年 中華民国(台湾台中市)に拠点開設。
- 1987(昭和62)年 第1回日中実践倫理学討論会を北京にて開催。
- 1989(平成元年)年 丸山竹秋理事長、藍綬褒章受章、社会教育功労者表彰。第1回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア」に参加(以後、毎年参加)。
- 1990(平成2年)年 倫理法人会10,000社達成記念大会開催。
- 1992(平成4年)年 丸山敏雄生誕100年記念大会を開催。
- 1995(平成7年)年 創立50周年記念大会を東京と沖縄で同時開催。丸山竹秋理事長が地球倫理推進の運動方針「アジアのタグポート」を発表。
- 1996(平成8年)年 丸山敏秋、理事長に就任。
- 1998(平成10年)年 第1回地球倫理推進賞贈呈式を開催(以後、毎年)。倫理資料館竣工。
- 1999(平成11年)年 倫理法人会20,000社達成記念大会開催。創立55周年記念中国クブチ沙漠「地球倫理の森」創成スタート(以降、毎年派遣)。丸山竹秋逝去。
- 2000(平成12年)年 ブラジルにサンパウロ支部設立。
- 2001(平成13年)年 新富士高原研修所グランドオープン。
- 2002(平成14年)年 創始者没後50年記念大会を全国7カ所で開催。
- 2003(平成15年)年 第1回こども倫理塾大会を開催。
- 2004(平成16年)年 倫理法人会40,000社達成記念大会開催。
- 2005(平成17年)年 「家庭倫理の会」発足。「朝の集い」を「おはよう倫理塾」に改称。創立60周年記念式典、青年フォーラム21全国大会開催。ハワイ支部設立。
- 2006(平成18年)年 創始者生家(復元)竣工。丸山敏雄「書と心」展開催。第1回しきなみ子ども短歌コンクール表彰式を開催(以後、毎年)。
- 2007(平成19年)年 倫理法人会50,000社達成記念大会開催。
- 2008(平成20年)年 第1回日中青年沙漠緑化交流開催(以後、毎年)。
- 2009(平成21年)年 「地球倫理の森」創成10周年記念大会開催。丸山竹秋会長没後10年記念大会開催。
- 2010(平成22年)年 創立65周年記念式典開催。日中実践倫理学討論会2010開催。



社団法人 倫理研究所

〒101-8385 東京都千代田区三崎町3-1-10 TEL 03-3264-2251/FAX 03-3264-7881

ホームページ <http://www.rinri-jpn.or.jp>

■発行所／社団法人 倫理研究所 ■編集／倫理研究所 広報部 ■発行日／2011.11.15